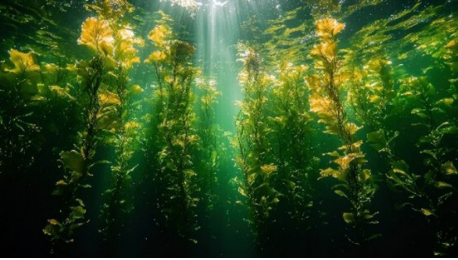


SDGsラジオを読みましょう！

ハンバーガーは好きですか？
もし、ハンバーガーを食べて海を守ることができたら…すごいですよね。
まちや住まい、リゾート地をつくる「東急不動産ホールディングスグループ」では、そんなバーガーを千葉県の勝浦市でつくっています。
その名も「勝浦ブルーバーガー」！
このバーガーの食材には、海そうを食べすぎってしまう「ブダイ」という魚などが使われています。
海そうは魚や貝のすみかになる、大切な海の森。
でも今、海水の温度が上がってブダイたちが増え、海そうが減っていつしまっているんです。
そこで、東急不動産ホールディングスは、勝浦市や漁師さんたちと協力して、海の森「藻場（もば）」を守る活動をしています。
海そうを食べる魚をつかまえて、とった魚をムダにせず、おいしく食べることで、みんなで協力して海を守っているんです。
みなさんの周りにも、地球にやさしい食べものの取り組みがあるかもしれません。探してみてくださいね。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



画像参照：藻場のイメージ写真



画像参照：勝浦ブルーバーガー
（東急不動産ホールディングスプレスリリースより）

海の中には、海そうが生えてできる「藻場」という場所があります。藻場は、魚や貝が育ったり、身をかくしたり、エサを見つけたりする大切な場所で、まるで「海の中の森」のような場所です。ところが最近、地球温暖化などの影響で海水の温度が上がり、海そうを特定の魚が食べてしまうことで、藻場が減ってしまう問題がおきています。藻場が減ってしまうと、そこでくらしていた生きものたちが行き場をなくして、やがて、海の環境全体が悪い方向に進んでしまいます。

そこで、千葉県の勝浦市は藻場を守るために、リゾート地をつくる会社「東急不動産ホールディングスグループ」といっしょに、海そうを食べすぎってしまう「ブダイ」という魚をつかまえる取り組みをスタートしました。そして、漁師さんをはじめとした、たくさんの人の協力のもとで生まれたのが、採ったブダイのお肉を捨てるのではなく、ハンバーガーの具材に使った「勝浦ブルーバーガー」です。藻場を元気に戻すためにつかまえられたブダイをムダにせず、おいしく食べることで海を守る力に変えています。勝浦ブルーバーガーは地域のイベントでも出されていて、食べながら「なぜこのバーガーができたのか」を知ることができ、藻場の問題や海の未来について考えるきっかけにもなっています。勝浦ブルーバーガーは、「地域と海がいっしょに元気になる新しい取り組み」として、これからも注目を集めそうです。

キーワード

海そう

ワカメやコンブのように、海の中に生えている植物のなかまです。

地球温暖化

地球の気温が少しずつ上がっていくことです。気温が上がると海の水温も高くなり、魚のすみかが変わったり、海そうが減りやすくなったりします。

ブダイ

青や緑、ピンクなどカラフルな体をした海の魚で、見た目がとてもあざやかなのが特徴です。

対象ゴール



みなさんにできること！

みなさんの周りにある「地球にやさしい食べもの」をさがしてみましょう。

おさらい

- 海の生きものがくらす「藻場（海そうの森）」が、地球温暖化などの影響で減ってきている。
- 勝浦市と東急不動産ホールディングスグループは、海そうを食べすぎってしまうブダイを使った「勝浦ブルーバーガー」をつくり、藻場を守る取り組みを進めている。
- 勝浦ブルーバーガーは、藻場の問題を知り、海の未来を考えるきっかけになる取り組みとして広がっている。

メモ